

星屑

2020 年 9 月号

No. 546



/20203 NEOWISE
2020/07/29 20:25:54-21:08:29
C-11 2800mm F10 Canon 6D
ISO6400 30s+40 ISO3200 60s+10

ネオワイズ彗星

2020 年 7 月 29 日 20:25:54-21:08:29 50 枚

C-11 直焦点 マルマクサー キヤノン 6 DHKIR 熊本市南区城南町塚原

がんばるばい 熊本！ 熊本県民天文台

7/31(金) LIVING熊本 8月1日号発行 「星空観察に出かけよう！」特集が1面に



左：

リビング熊本紙 8月1日号の1面

「星空観察に出かけよう！」特集紙面

左下：

県民天文台の紹介

コロナ対策を呼びかけ、「望遠鏡での直接の観察はできません」と明記

■ 掲載についての打診

7月第3週の終わり頃、リビング熊本の編集担当者から「星空特集」の誌面を計画中で、至急掲載の諾否をして欲しいとの電話が入りました。ちょうど県民天文台の一般公開再開を検討しているところでしたが、新型コロナウイルス

の感染が急拡大し始めてもいたので、「決して煽らない誌面にして欲しい」、「再開するかどうかを18日（土）の夜に決める予定なので、そのあとに返事をする」と答えました。すると、原稿の最終締め切りが22日(水) だとのこと。予定の原稿案を送ってもらい、再開が決まったら、週末のうちに必要な画像データを提供することにしました。

■ 土曜日、トークアバウトで

一般公開を再開するかどうかを検討。新型コロナウイルス感染が急拡大し始めていることを心配しながらも、最大限の感染防止策を考え「野外での星空観察」に特化した形で「梅雨明けから再開する」と決定しました。もちろん、状況によっては再度休止する場合もあり得る、という条件付きです。

■ データを提供

提供したデータに合わせて原稿のレイアウトが変更され、修正原稿が届きました。それに、「募金歓迎」の文字を加えていただき、イスやレジャーシートを持参していただくよう明記をお願いして、掲載を了承しました。

■ 問い合わせが・・・



7月31日(金)の朝から、一般公開についての問い合わせが入り始めました。「望遠鏡による直接の観察はできません」と明記してあるので、「どんな観察会?」「感染防止策は大丈夫?」「人数制限はないの?」「行きたいけどどうすれば良いの?」など、いろいろ質問がありました。で、説明すると、「楽しそうですね、行きます!」という返事が・・・。

こちらは、「来台する気が消えるのではないか?」と心配しながら、「接眼部をのぞき込むことの危険性を考えて、望遠鏡での眼視観察は行いません」、「参加者が自分たちで他人と距離を取って頂き、古墳公園の芝生の広場で星空を見上げます」、「レジャーシートや折りたたみイスなどをご用意下さい」、「代表者の住所氏名と携帯番号、参加者の人数などを紙に書いて持参して下さい」、などと説明したのですが、「ホームページを見て確認しています」とか、「もちろんそうします」など、好意的な反応ばかり。

コロナ自粛続きでストレス満杯な子供たちを抱え、夏休み突入で何かをしてあげたい親心(?)なののでしょうか、すごく好意的な反響が続きました。しかも、時間がたつごとに電話のかかる回数が増え続けます。

これでは、「精一杯の準備をして、8月1日の土曜日を迎えよう!」と覚悟を決めるしかありませんよね。で、もう一度、機材の配置をどうするか「漫画」を書いて再確認、参加者が機材や解説者に近づけないように、ホームセンターで三角コーンやポールを調達し、物理的にセーフティーゾーンを確保することにしました。

8/1(土) 5ヶ月間の公開休止のあと 「一般公開」を再開したら、89名が来台!

公開時間帯は 20:00~21:30 星が見え始めてから開始することにしました



■ 8/1(土)、ついに、一般公開を再開しました

リビング新聞の1面に掲載されたので、この日も朝からたくさんの問い合わせ電話がかかってきました。それで、ある程度の覚悟をして出かけ、18時半頃から準備を開始。古墳公園のトイレの前付近に解説場所をつくって、周囲を三角コーンとポールで囲いました。ノートパソコン、ワイヤレスアンプ、21インチのディスプレイ、AZ-GTiに載せた500mmレンズ+D300（月を撮影して表示）、サーキュレーター(扇風機)、などを設置。

19時過ぎには、来台者が到着しはじめたので、19時30分頃から解説を始めました。その後、続々と家族連れがやってきて・・・、総勢89名！ 天文台の玄関前広場ではなく、古墳公園の芝生の広場で解説することにしていて正解でした。



■ いざ始めたら

薄雲が広がり、明るい月もあって、星はあんまり見えないのだけれど、夏の大きな三角や春の大曲線・春の大三角（そのうちの2つ）などは見えたので、「星空解説」をしてから、いつものように「宇宙」へと展開・・・。途中、質問を誘いながら、月を撮影してはその画像をディスプレイに表示したり、天の川を撮影した画像やM8などM天体の画像なども表示しつつ、いろいろ解説を行いました。ディスプレイを見てもらったり、星空を見あげてもらったりの繰り返しです。

予想していた通りに、「星空を見あげながら解説を聞き、質疑応答をする」という展開で満足する人が多かったようです。一方で、ディスプレイに解説画像や電子紙芝居を表示すると、大人だけでなく特に子ども達が画面の正面に近づいてしまう傾向が強く、中には画面に手を触れてしまう子どもも出てきました。

こんな状況を見ると、やはり解説はプロジェクターと大画面スクリーンの組合せで実施した方が良いかもしれないという感じです。プロジェクターやスクリーンを野外に設置するとなると、それなりに設営と撤収に人手と時間が必要になり、天候の急変時にも対応が困難です。その点が非常に悩ましいですね。何か、よりよい解説の提示方法があれば、工夫してみたいと感じました。

■ 国際宇宙ステーション

21時18分から、ISSの通過が、「2分間だけ見える」という予報だったので、全員で21時15分頃から北西の空に注目・・・しかし、見えず。予報時刻が過ぎて、「雲があったから見えませんでしたね、残念でした」と言った途端に、雲の隙間に光点が現れ、スル

スルと北極星に向かって動いて行きます。「ISSです!」と急いでレーザーポインターで指し示したら、「うわー、(動きが)速いね!」などとあちこちから声が上がりました。ISSが北極星をかすめるように通り過ぎてから、「地球の影」に入って、見えなくなったことを解説したら、「地球に影あるとは知らなかった」という声が、あちこちから上がりました。

■ 再び解説

そこで、満月近い月明かりで自分の影が芝生に落ちていることを確認して貰ってから、「太陽が地平線の向こうに沈んで、今はこの方向にいるから、この辺に地球の影が宇宙(私たちが見あげている夜空)に向かって伸びているのです」「太陽の光がまだ届いているところを飛んでいた人工衛星が、東へ動いていったので地球の影に入り(光が当たらなくなって)、それでISSがスウーツと消えるように見えなくなったのです」と説明。そうしたら、納得して、とても嬉しそうな表情を見せてくれました。そこで、再開第1回目の一般公開が無事に終了したことを宣言しました。 ふう・・・・・・・・・・!

5ヶ月間の休止のあと、いきなりの大観望会!緊張がすごくて、随分くたびれました。

■ 新型コロナウイルス感染の広がり

今回は上記のように何とか成功裏に実施できた一般公開ですが、次回、もし「公開」ができる状態であるなら、公園では「電子観望」をなくすか減らすかして、肉眼での観察と解説により注力した方が良いかもしれません。映像や画像が表示されていると、(興味深いものばかりなので)、どうしても人が密集してしまい易いのです。

今夜のスタッフは、艶島・中島・小林J・高田の4名。お疲れ様でした。

☆☆☆☆☆☆ これからの予定 ☆☆☆☆☆☆

- ★ 8月13日(木) 美里町「元気の森 かじか」 で
19:45~20:30 「夏の星空観察会」
イーランドスポーツクラブ主催
- ☆ 8月21日(金) フィールドミュージアムへ飛びだそう!
20:00~21:30 「夏の星空観察会」 ※ 実施する予定
- ★ 8月26日(水) 山鹿市菊鹿町公民館 で生涯学習講座
10:00~11:30 「星空と宇宙の入口」 ※ 開催検討中
- ★ 9月12日(土) 熊本県環境センター(水俣) で
19:30~21:30 「星空観察会」 木星・土星・天の川
- ☆ 10月 2日(金) フィールドミュージアムへ飛びだそう!
「月の観察会」

七夕彗星、雲の上

Porco Nisse

C/2020 F3 (NEOWISE) 2020/07/20.530 UT
EOS M6 + EF200mm F4 ISO:1600 SS:5sec, x33

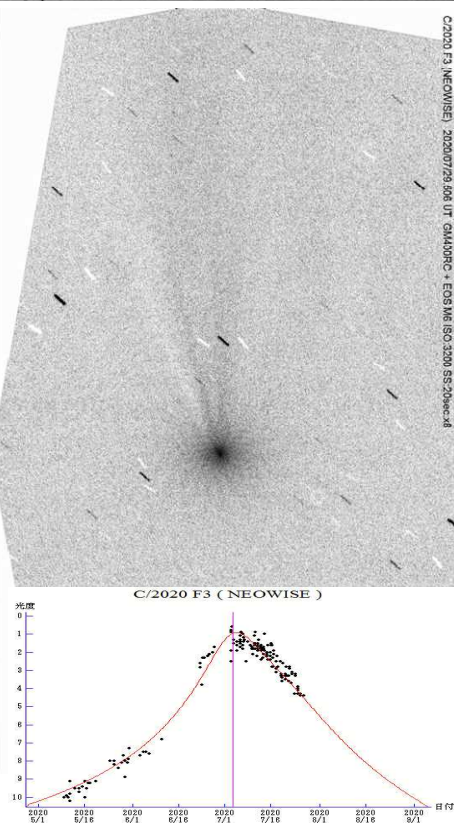
30'

★ C/2020 F3 (NEOWISE)

7月3日に近日点を通過したこの彗星は明け方の空で肉眼彗星に成長した姿が世界各地で観測された。ネットに投稿される見事な彗星を見たいと思った人も多いはずだ。だが日本ではあいにくの梅雨空…というより観測史上最も多雨で、寡照という異常気象だった。星祭りの七夕の時期にすばらしい彗星が出現したというのに全く見えない日々が続いていた。晴れ間を期待しては県内のあちこち遠征してみたが、いっこうに見ることは敵わなかった。星仲間には沖縄・石垣島や北海道に遠征した猛者もいた。でもコロナ禍での移動をためらって諦めた人も少なくないだろう。

結局、彗星を見ることができたのは20日の夕空で、それも雲間にちらりとだった。ただ新月期で月の邪魔がないため肉眼でも確認できた。双眼鏡では尾もはっきりと見えた。もっと早い時期に、明るいときに見たかったと思う。その後晴れ間を求めての移動は止め、天文台の40cm鏡で彗星核近傍構造の撮影を目標にした。屋根が開けなかったり、マスクを外すのを忘れたりとホホもあったけれど梅雨が明けたこともあって観測できた。ただ梅雨明け後は月明もあり、望遠レンズや肉眼での観測ではしよばい姿になっていた。彗星の旬は短いのだ。

今月は春の星座をゆっくり南下して行く姿を夕空に見ることができる。光度は6等から9等へと減じる…すでに大彗星とは言えない姿だが写真ではまだ楽しめるはずだ。令和初の大彗星を見送る夏休みになりそうだ。



自動経緯台で双眼鏡を使う！

Porco Nisse



双眼鏡は星を見るのに好適なツールだ。暗い空を双眼鏡で観る…それは画像で観る宇宙とは別次元の世界なのだ。ただ手持ちで観るスタイルは簡便ではあるが、疲れるのも確かだ。やはり架台に搭載してじっくり観たい！とくに倍率が高い双眼鏡は架台が欲しくなる。そんな需要を見越してか、ビクセン・ポルタ経緯台等には双眼鏡搭載を想定したL型プレートが用意されている。架台に搭載しての次なる欲求は天体を自動追尾してくれないかなぁ…となる。そういえば昔大型双眼鏡を赤道儀に搭載した強者がいた。双眼鏡は二つの接眼部が水平でないといけない(人間の眼は水平についているからね)ので、大きな鏡筒回転部を赤道儀につける工夫がなされていた。さすがにこれはちょっとコストがかかりすぎたか、主流にはならなかった。

昨年、Sky Watcher AZ-Gti マウントが発売された。三脚込みで超安い(現在38280円)製品だ。形式は経緯台。スマホから制御でき、天体を自動追尾する優れものだ。価格と中華製から大丈夫かなぁと思いつつ試用した。宝箱からパーツを集めビノホルダーを自作、45mmアリガタをつけ双眼鏡用L型具を自作した。(上図参照) これに双眼鏡を搭載して星空観望してみるとなかなか快適だ。制御ソフトSynScanProは無料でダウンロードできる。スマホにインストールすると、スマホから使えるようになる。デジタル音痴には簡単だよとは言わないが、スマホのアプリを苦も無く扱っている方々には難しくないといえる。

使い方は簡単だ。本体と三脚を延長筒を介して組み立てる。電源スイッチをONにして、架台を水平に設置する。そして、スマホとwifiで接続する。次に初期設定をし、アライメント等を行うとSynScanProから有名どころの天体は自動導入できるようになる。このアプリには双眼鏡で見える天体はほぼ網羅されているのだ。たださすがに彗星等の移動天体を自動導入する機能はなかった。でも、彗星の赤経・赤緯を入力することで、自動導入は可能だ。

星図画面から自動導入するには SkySafariと併用する例がネット上で公開されている。この場合はスマホよりも画面の大きいタブレット端末のほうが使い勝手は良いだろう。自動経緯台に乗せた双眼鏡では、探す手間が省け、両手が空いている…その快適さは使ってみると分かるだろう。

一式が片手でひょいと持てる自動経緯台がこの価格で手に入るとは、日本の物作りは大丈夫なのかなと思ってしまう。



7x50双眼鏡には大きめのL型具を用意



6x32双眼鏡はこんな具合に使う

トホホ爺さん、ワディーに行く

Porco Nisse

★ ワディー 八日目

10時に起床、パンとチーズと卵焼き、それにホウレン草スープで朝食。うん、健康的だ。この旅は鷺さんと同室なのだが、二人とも部屋では酒を飲まない。飲むのは皆が揃う夕食時だけだ。今日はやはりワインとビア付き…肉とソーセージの焼き物だ。作る頃に晴れ間が出てきた。今夜はいけるかも…。

食後、ワディーの日没を見ようと隣の麦畑まで歩いてみた。なだらかな丘陵がどこまでも続く広い世界に一人、これで星が見えたら最高なのになあと思うが自然は無情だ。夕日は雲に遮られた。低空は雲が多いけれど沈む細い月(月齢1.9)が見えた。

ポラリエUの動きがおかしいのは気づいたが、メーカーにクレームを言うには現象を説明できねばならない。水野氏の極軸望遠鏡を借りてポラリエの極軸を正確に合わせた。おかげで八分儀座の四星と南極の関連も覚えられたのは幸いだ。電池も複数準備して交換しつつ動作を確認した。また、カメラや雲台を外して無負荷状態でも試運転した。結果、初動数十分は追尾すること。その後いつの間にか追尾しない状態になること。こうなると負荷や電池に関係なく追尾不能となる…ただしモーター音はしているので、完全に停止していないこと。動作モードもランプでは表示されていても機能しない。これはもう返品しかない、旅費を返せと言いたい…これは無理か。

ポラリエUでの撮影を諦めて、水野氏のJILVA170にカメラを同架させてもらった。おかげで南天を見に行けた証拠写真を撮影できた。ヒゲさんに画像を土産にと言われていたので、ありがたや・ありがたやの水野氏のご厚意だ…それらの成果がこのページの画像だ。JILVAの自動追尾と60Daのタイマーリモートが撮影してくれたもので、なんとなく後味が悪いけれどね。

津村氏がブルーシートを貸してくれたので、草原に広げて寝転がって星を見た。強い風で強くシートがはためく中、仰向けに見ると頭上にシリウス・カノーブスが見える。これが飛行機の窓から見た星だ。北西に低く見えるのはカペラだ。オリオン座としし座はひっくり返って見えている。オリオン座からケンタウルス座まで銀河が頭上を横切る。冬の銀河はこんなに明るいのだと再認識する光景だった。1時間ほど見ていただろうか…足音が近づいてくる。踏まれては大変と起き上がる。真っ暗で地べたに寝転がっているとは思わないだろうからね。

この夜は津村氏がワディーに置いている40cmドブソニアンで星雲星団の観望もした。大マゼラン雲の近くにあるタランチュラ(毒蜘蛛)星雲は双眼鏡でも雲のように見えるが、40cmで見ると星雲の中心部にさらに毒蜘蛛に似た星雲が見える。なるほど津村氏がドブを置いておくわけだと納得する。絶景と言えばΩケンタウリも圧巻だ。北天一のM13なんて足下にも及ばない光の集まりがそこに見えるのだ。そして、ηカリナ星雲はオリオン座大星雲M42に勝るとも劣らない星雲で、40cmでは色がモノクロではなく、うっすらと色づいているのがわかる。いやあすばらしい、ブラッドフィールド氏はこんな空の下で彗星を探していたんだと羨ましく思えた一夜だった。



トホホ爺さん、ワディーに行く

Porco Nisse

★ ワディー 九日目

前夜に遅くまで起きていたので、早起きは辛い…でも日程があるので起きねばならない。今日はもう夕刻には帰国便に搭乗する日なのだ。いつもより早く起きて荷造りを始めると、また停電したが、きっとどこかで落雷があったのだろう…もう慣れてしまった。おにぎりの朝食後、残った食料やまだ使える物は8号室の前に「どうぞお使いください」の張り紙をしてそっと置く。関東組はまだ3日ほど滞在する…朝寝の邪魔をせぬように。

帰国準備が済むとスワンバレーへと向かう。ブドウ畑が広がるスワン川沿いの谷間地帯だ。そのブドウ農園に併設のレストランで昼食を摂ろうと言う魂胆だ。今回は津村氏がブラックスワンというレストランをネットで見つけていた。外国の料理の量の多さにはいつも困っていたので、小さな皿のOZステーキを頼もうとすると店員さんが小さいのより大きな皿のステーキが良いよというので大皿にした。もちろん、赤ワイン付きだ。ちょうど良い量のステーキでおいしくいただいた。ゆっくり昼食を摂っている間、雷鳴轟く豪雨が地域を襲った。うーん、最後の最後まで天候に悩まされるなあ。

帰路は国道 1号線ではなく、海岸沿いの新しいバイパスを南下してバースへ向かってドライブだ。この帰路の運転手はあみだくじで決めた。だって運転手は飲めないからね。日本と違って、オーストラリアではワインをコップ一杯くらいは飲んで良いらしいが…やっぱりもっと飲みたいのが人情さ。

ガソリンを満タンにしレンタカーをバース空港で返却する。空港に来るとマスク姿の人が増える。コロナ禍がまた身近に迫る感じがする。夏のオーストラリアで冬支度の姿、さらにマスクとなれば怪しい爺さんだ。搭乗前の顔認証でマスクは外さねばならないのが面倒だ。搭乗後はシンガポールまで寝るだけだ。

シンガポールには22時過ぎに到着。0時半のSQでKIXに向かうトランジットだ。チャンギ空港はコロナ禍でも思った以上に人た以上に人が多いが、やはりマスク姿がほとんどだ。広い空港なので出発ゲートを探すのも大変だ。おまけに誰とは言わないが、忘れ物騒動があったりした。KIX への便は席に余裕があったので、思い思いにくつろいでの帰路となった。往きとは違って窓から外を見る気も起こらず、ひたすら寝る。

★ 再び K I X

8時過ぎKIXに到着。コロナ禍で厳重警戒下の空港だったが、何事もなく無事入国できた。今思えばこれは幸運なことで、その後の入国制限を思うとひや汗ものだ。預託荷物を全員無事受け取ったところで今回の旅は解散となった。

空港宅配便カウンターで水野氏とともにスーツケースを預け、身軽になって特急はるかに乗る。隣のホームには南海電車の鉄人が入線していた。はるかの指定席はコロナ対策であろう…離れた席にばらばらと乗客がいた。水野氏とは新大阪まで同行した。彼から次回のためにポラリエ工用の三脚を譲っていただいた。感謝感謝だけど…来年もワディー行き確定か。乗客の少ない新幹線さくらでコロナウィルスに怯えながらも帰熊したのだった。



☆☆☆☆ ちょっと一服

Poem & Illustration

いつになったらやむのか…と思われた長雨がやっと終わって梅雨明け。途端に連日の晴天・猛暑です。庭がからからに乾ききって、毎日必死の水まきしているのですが、植物たちは暑さでぐったり人間もぐったり…雑草ばかりがやたら元気で困ったもんです。

いつになったらやむのか…のもう一方の新型コロナ。こちらは一段と勢いを増しています。夜に一人で星を眺める分には全く問題ないのですが、なかなか気が乗りません。ということで、またまた前回のロケット打ち上げ時に撮った画像の中の一枚の、いての部分アップです。なので、電線に引っかかっています。

木星と土星は相変わらずですが、真夜中の火星がずいぶん目立つようになりましたね。10月6日が最接近。うお座付近は明るい星がないので、余計目立ちます。金星は13日が西方最大離角。でも、明けの明星なんだよなあ…眠い…



一部

ティーポットの口から勢いよく湯気が出ている
真夜中のティータイム

イヤイヤ
アレハ サソリ ノ 心臓ヲ 狙ッテイル 射手ダヨ

電線に引っかかった 南の冠が 異を唱えた

ティーポット ナンテ ホンノ 一部サ
北ノ ヒシヤク ガ 大熊ノ一部ナノト 同じ

南のひしゃく は ティーポットの一部
で
ティーポットは 射手の一部
で

私ハ 何ノ 一部ナノダロウ

人間に取り込まれたウィルスは
人間の一部 だ なんて
思っちゃあ いないだろうが



By Dio

2020年7月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率 2日／4日＝50%

一般来台者数 0名

総開台日数 10日

会員来台数 12名

日付	天気	担当運営	来台数	記 事
1 日 (水)	晴れ	小林 J	0 人	レモン彗星を狙うも雲と竹に隠れて OUT ! Tsu 氏が AZ-GTi で遊ぶ
1 6 日 (木)	曇り のち 晴れ 間	小林 J 艶島	0 人	ネオワイズ彗星観測 40cm がエラーを起こし復旧できず 吉無田高原 北西の空を広角レンズで撮影したが彗星の位置にずっと雲があって写らず
1 7 日	晴れ	艶島	0 人	望遠鏡制御システムのエラー調査
1 8 日 (土)	曇り	艶島 小林 J 高田 中島	0 人	Talk About 先月の活動報告 来月の活動予定の確認 20h からの運営とする
1 9 日 (日)	曇り 時々 晴れ	中島 西嶋		自宅でネオワイズ彗星撮影 雲があって写らず。 不知火町に移動して撮影。肉眼でもよく見える。 久しぶりの大彗星だった。 自宅付近で双眼鏡で確認
2 0 日 (月)	晴れ 時々 曇り	小林 J 中島	0 人	c/2020F3 撮ろうとして 20h に来る。スライディンググループが途中で止まる。RC40 はあきらめて SP 赤道儀で 70-200F4 を使って撮影。熊本市の光害の中で見がたいといえ見えたのでよしとしよう 自宅屋上で撮影
2 8 日 (火)	曇り 時々 晴れ	小林 J	0 人	雲の切れ間があったので梅雨明けを待ちきれずに来る。C/2020F3 付近の雲が最後までとれずトホホの夜。それでも 40cm、緑色のコマは写った。 Win10,Linux とともに update が合ったので適用しておいた。明晩は晴れるかな？
2 9 日 (水)	晴れ 雲あり	小林 J 中島	0 人	やっと晴れ間が出たので NEOWISE を見る。しょぼくなった姿にがっかり。結局良いときは雲の上だった。ルーフのワイヤーをヒゲさんが調整。助かりました。 自宅で C-11 直焦点で撮影。

3 0 日 (金)	晴れ のち 曇り	小林J	0人	月夜だけど NEOWISE。ここでまたトホホ。マスクを外さず写していた。コロナウイルスがまた流行ってますね。公開はどうしたもんでしょう。
3 1 日 (土)	晴れ / 曇り	小林J	0人	今夜は TamronSP300mmF2.8 で撮ってみた。1P/ハレー用に買った 40年もののレンズだ。40cm では核近傍を狙うが雲の邪魔が多い。梅雨が明けたと行ってもすっきりとは晴れない。WinPC が起動で固まった。Reset で復活。その後順調。

ネオウィズ彗星で大騒ぎ Hige

いい意味で期待を裏切ったネオウィズ彗星。いつも期待して待っていると、しょぼい姿にがっかりということを繰り返してきたが、ようやく期待以上の姿を見せてくれた。

しかし梅雨本番の時期。いつまでも開けない梅雨空にうんざりとしながら、世界各地で撮影された見事な姿にため息を漏らすだけだった。一番いい時期はとうとう逃してしまい。何とか姿だけでも捉えたいと、日々苦戦。

最初は16日に自宅近くの田んぼで撮影。雲で写らず。

17日は住吉海岸公園で撮影するも、雲におおわれて撃沈。蚊に刺されて痒かった。

それでもめげずに19日。自宅屋上にセットしたが雲が動かず。しかし、南の方が明るいので、移動観測を決断。空を見ながらさまようこと30分。何とか見えそうな場所を発見して、道ばたに三脚を据えて撮影。ふと見ると肉眼でも立派な姿が見える。本当に久しぶりの肉眼彗星で感激した。ずいぶん前のウェスト彗星を思い出した。

20日は自宅屋上から撮影。熊本市の明かりの中に浮かぶ姿が印象的だった。肉眼で見えたのはこの日までだった。

その後、29日に自宅屋上でC-11直焦点で撮影できた。ようやく高度が大きくなってきたので、観測室の屋根に引っかからなくなったのだ。青緑のコマと伸びる尾が美しい。しかし、19日に撮影できていれば素晴らしかっただろうなあ。とりあえず、そこそこの写真が撮れたので、これでよしとしよう。

それにして、天気はどうしようもないと感じた彗星騒動だった。

おまけの物欲編

今回もオークション三昧。ノートパソコンを落札。第4世代のi5ノート。SSD128G、メモリ8G、1600×900という13.3インチのノートパソコンを送料込みで12000円ほどで落札。とりあえずちょっと使える移動用。使ってみると問題なしの高速起動。なかなかいい感じだ。それ以外にもいくつか落札したのだが、それはまた来月にでも。

梅雨明けした途端連日の猛暑、身体がついて行きません。梅雨といえば今回の雨量、平年の2倍から3倍程だったと。地球温暖化の為に、こんな事は想定外、が今からは当たり前の時代になるのかな。皆様もお気をつけ下さいませ。さて、久しぶりに肉眼で見た彗星、ネオワイズ彗星を見ましたか？ 天気の関係でなかなか難しかったですが、見られた方はラッキーでしたね。私はダメでしたので、皆様の写真で楽しんでおります。

☆ 9月の天文現象 & 行事 ☆

- 2日(水) 満月(14:22)
- 3日(木) 準惑星ケレスが衝(08:16 視直径7.6")
- 6日(日) 月と火星が接近
- 7日(月) 白露(はくろ … 秋の気配が強まり、草木の葉に露が白く光るという意味)
- 9日(水) 金星とプレセペ星団が接近
- 10日(木) 火星が留(02:47) 下弦(18:26)
- 12日(土) 海王星がみずがめ座で衝(16:51 7.8等 視直径2.4")
トークアバウト(20:00～ 変更の場合あり)
- 13日(日) 木星が留(08:55)
- 14日(月) 細い月と金星が並び
- 17日(木) 新月(20:00)
- 21日(金) フィールドミュージアム(予定)
- 22日(火) 秋分(しゅうぶん…昼夜同じ長さになる日で秋分。秋の彼岸の中日)
- 24日(木) 上弦(10:55) 月面Xが見える(22時)
- 25日(金) 月と木星が接近
- 26日(土) 月と土星が接近
- 29日(火) 土星が留(11:52)

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2020年9月号 通巻546号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226

熊本県熊本市南區城南町塚原2016番地 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01700-5-105697

NPO熊本県民天文台事務局

天文台ホームページ <http://www.kcao.jp/> メールアドレス astro@kcao.jp

メーリングリストの加入申し込み受付中 kcaohige2003@yahoo.co.jp 中島まで